

## 第9章 総合評価

本事業の実施による環境への影響について、調査・予測・評価を行った結果を表 9-1 に示す。

大気質、騒音、振動、悪臭、水質など全ての環境要素において、環境配慮事項や環境保全措置を適切に実施することにより、環境基準など環境保全に関する目標との整合を図ることができることから、総合的な環境への影響は極めて軽微となると評価した。

なお、具体的な環境保全措置としては、猛禽類の保全対策としての工事前年及び工事年の猛禽類のモニタリング調査の実施とその結果を踏まえた対策の実施、改変割合の高い植物（9 種の重要種）の移植があげられる。

また、環境に配慮した工事の実施及び植物重要種移植後の生育状況を確認するため、「第 8 章 事後調査計画」に示す事後調査を実施する。

表 9-1 総合評価 (1)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																																																
大気質	<b>A. 大気質</b> 住居側敷地境界や対象事業実施区域の周辺2箇所における二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の測定結果(四季)は、下表に示すとおりであり、全ての測定項目で環境基準値等を下回っていた。 また、住居側敷地境界における降下ばいじんの測定結果は下表に示すとおりであった。	<b>【工事の実施】</b> <b>(1) 建設機械の稼働に伴う排出ガスの影響</b> 建設機械の稼働により発生する排出ガス(二酸化窒素及び浮遊粒子状物質)の影響は、全期とも環境保全に関する目標を下回った。 <b>&lt;二酸化窒素の予測結果&gt;</b> 単位:ppm	<b>【工事の実施】</b> <b>(1) 建設機械の稼働に伴う排出ガスの影響</b> ・排出ガス対策型建設機械の使用 ・不要なアイドリングの停止	<b>【工事の実施】</b> <b>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</b> 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。 <b>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価</b> すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。 <b>&lt;環境保全に関する基準又は目標&gt;</b> ・大気汚染に係る環境基準(二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標	事後調査を実施する必要性はないと判断した。																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>測定項目</th> <th>期間平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.0015~0.0023</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0100~0.0103</td> </tr> <tr> <td>降下ばいじん (t/km<sup>2</sup>/30日)</td> <td>3.0</td> </tr> </tbody> </table>	測定項目	期間平均値	二酸化窒素 (ppm)		0.0015~0.0023	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0100~0.0103	降下ばいじん (t/km <sup>2</sup> /30日)	3.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>年平均値予測結果</th> <th>日平均値予測結果(年間98%値)</th> <th>環境保全に関する目標(日平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A.2 (住居側敷地境界)</td> <td>I期</td> <td>0.00628</td> <td>0.0015</td> <td>0.0078</td> <td>0.0175</td> <td rowspan="6">0.04 (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>II期</td> <td>0.00062</td> <td>0.0015</td> <td>0.0021</td> <td>0.0108</td> </tr> <tr> <td>III期</td> <td>0.00061</td> <td>0.0015</td> <td>0.0021</td> <td>0.0108</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">A.4 (梶沢自治公民館)</td> <td>I期</td> <td>0.00058</td> <td>0.0015</td> <td>0.0021</td> <td>0.0108</td> </tr> <tr> <td>II期</td> <td>0.00012</td> <td>0.0015</td> <td>0.0016</td> <td>0.0104</td> </tr> <tr> <td>III期</td> <td>0.00010</td> <td>0.0015</td> <td>0.0016</td> <td>0.0104</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(年間98%値)	環境保全に関する目標(日平均値)	A.2 (住居側敷地境界)	I期	0.00628	0.0015	0.0078	0.0175	0.04 (環境基準)	II期	0.00062	0.0015	0.0021	0.0108	III期	0.00061	0.0015	0.0021	0.0108	A.4 (梶沢自治公民館)	I期	0.00058	0.0015	0.0021	0.0108	II期	0.00012	0.0015	0.0016	0.0104	III期	0.00010	0.0015	0.0016	0.0104	<b>(2) 建設機械の稼働に伴う粉じんの影響</b> 平成29年度の気象観測結果を用いて、風向、風速階級(ビューフォート風力階級)別の時間出現率を整理した結果、工事中における粉じんの発生が予測される砂埃が立つ条件(風力階級風力4以上)は、年間21時間(全体の0.2%)となり、その際の風向きは南東(SE)及び南南東(SSE)からの風であり保全対象方向には吹かない。 本事業においては、必要に応じて散水をすることで粉じんの発生は抑えられるが、さらに粉じんの発生しにくい風況となっており、工事中の粉じんの飛散は限りなく少ないと考えられる。	<b>(2) 建設機械の稼働に伴う粉じんの影響</b> ・強風時の作業の一時中止 ・工事区域への散水の実施
	測定項目	期間平均値																																																			
	二酸化窒素 (ppm)	0.0015~0.0023																																																			
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0100~0.0103																																																				
降下ばいじん (t/km <sup>2</sup> /30日)	3.0																																																				
予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(年間98%値)	環境保全に関する目標(日平均値)																																															
A.2 (住居側敷地境界)	I期	0.00628	0.0015	0.0078	0.0175	0.04 (環境基準)																																															
	II期	0.00062	0.0015	0.0021	0.0108																																																
	III期	0.00061	0.0015	0.0021	0.0108																																																
A.4 (梶沢自治公民館)	I期	0.00058	0.0015	0.0021	0.0108																																																
	II期	0.00012	0.0015	0.0016	0.0104																																																
	III期	0.00010	0.0015	0.0016	0.0104																																																
<b>B. 気象</b> 北西と南西を結ぶ方向に風が流れており、特に北西方向からの風が卓越した。年間の平均風速は、住居側敷地境界では1.3m/s、事業地上流側の尾根上では2.1m/sであった。 <b>C. 気温・湿度</b> 年間の平均気温は8.8℃、最高気温は33.5℃(7月)、最低気温は-16.1℃(2月)であった。平均湿度は82.5%であった。 <b>D. 日射量・放射収支量</b> 年間の積算日射量は357.7kW/m <sup>2</sup> であった。年間の積算放射収支量は117.8kW/m <sup>2</sup> であった。 <b>E. 交通量・車速</b> 市道時森梶沢線における交通量は、平日262台/日、休日176台/日であった。平均車速は、55km/h前後であった。 <b>F. 運行道路の沿道状況</b> 市道新時森線及び市道土沢梶沢線の国道282号線から対象事業実施区域までの区間の沿道は耕作地若しくは林野となる。また、民家(2階建)が点在する。 本道路は、八幡平市において道路の拡幅が計画されている。	<b>&lt;浮遊粒子状物質の予測結果&gt;</b> 単位:mg/m <sup>3</sup> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>年平均値予測結果</th> <th>日平均値予測結果(2%除外値)</th> <th>環境保全に関する目標(日平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A.2 (住居側敷地境界)</td> <td>I期</td> <td>0.00055</td> <td>0.010</td> <td>0.0105</td> <td>0.0294</td> <td rowspan="6">0.10 (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>II期</td> <td>0.00004</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0286</td> </tr> <tr> <td>III期</td> <td>0.00004</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0286</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">A.4 (梶沢自治公民館)</td> <td>I期</td> <td>0.00004</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0286</td> </tr> <tr> <td>II期</td> <td>0.00001</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> <tr> <td>III期</td> <td>0.00001</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(2%除外値)	環境保全に関する目標(日平均値)	A.2 (住居側敷地境界)	I期	0.00055	0.010	0.0105	0.0294	0.10 (環境基準)	II期	0.00004	0.010	0.0100	0.0286	III期	0.00004	0.010	0.0100	0.0286	A.4 (梶沢自治公民館)	I期	0.00004	0.010	0.0100	0.0286	II期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285	III期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285	<b>(3) 工事用車両の走行に伴う排出ガスの影響</b> 工事用車両の走行に伴い発生する排出ガス(二酸化窒素及び浮遊粒子状物質)の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。 <b>&lt;二酸化窒素の予測結果&gt;</b> 単位:ppm	<b>(3) 工事用車両の走行に伴う排出ガスの影響</b> ・低公害車の導入推進 ・空ふかし等の禁止										
予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(2%除外値)	環境保全に関する目標(日平均値)																																															
A.2 (住居側敷地境界)	I期	0.00055	0.010	0.0105	0.0294	0.10 (環境基準)																																															
	II期	0.00004	0.010	0.0100	0.0286																																																
	III期	0.00004	0.010	0.0100	0.0286																																																
A.4 (梶沢自治公民館)	I期	0.00004	0.010	0.0100	0.0286																																																
	II期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285																																																
	III期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285																																																
		<b>&lt;浮遊粒子状物質の予測結果&gt;</b> 単位:mg/m <sup>3</sup> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>年平均値予測結果</th> <th>日平均値予測結果(2%除外値)</th> <th>環境保全に関する目標(日平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A.7 (西側道路沿道)</td> <td>I期</td> <td>&lt;0.0001</td> <td>0.0021</td> <td>0.0021</td> <td>0.0113</td> <td rowspan="6">0.04 (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>II期</td> <td>&lt;0.0001</td> <td>0.0021</td> <td>0.0021</td> <td>0.0113</td> </tr> <tr> <td>III期</td> <td>&lt;0.0001</td> <td>0.0021</td> <td>0.0021</td> <td>0.0113</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">A.7 (西側道路沿道)</td> <td>I期</td> <td>&lt;0.0001</td> <td>0.0100</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> <td rowspan="6">0.10 (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>II期</td> <td>&lt;0.0001</td> <td>0.0100</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> <tr> <td>III期</td> <td>&lt;0.0001</td> <td>0.0100</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(2%除外値)	環境保全に関する目標(日平均値)	A.7 (西側道路沿道)	I期	<0.0001	0.0021	0.0021	0.0113	0.04 (環境基準)	II期	<0.0001	0.0021	0.0021	0.0113	III期	<0.0001	0.0021	0.0021	0.0113	A.7 (西側道路沿道)	I期	<0.0001	0.0100	0.0100	0.0285	0.10 (環境基準)	II期	<0.0001	0.0100	0.0100	0.0285	III期	<0.0001	0.0100	0.0100	0.0285	<b>(4) 工事用車両の走行に伴う粉じんの影響</b> 工事用車両の走行に伴い発生する粉じんは、退出する工事用車両のタイヤ洗浄等の実施により周辺への飛散が防止されることで、全期にわたり環境保全に関する目標を下回るものと考えられる。	<b>(4) 工事用車両の走行に伴う粉じんの影響</b> ・工事用車両のタイヤ洗浄 ・周辺道路の清掃								
予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(2%除外値)	環境保全に関する目標(日平均値)																																															
A.7 (西側道路沿道)	I期	<0.0001	0.0021	0.0021	0.0113	0.04 (環境基準)																																															
	II期	<0.0001	0.0021	0.0021	0.0113																																																
	III期	<0.0001	0.0021	0.0021	0.0113																																																
A.7 (西側道路沿道)	I期	<0.0001	0.0100	0.0100	0.0285		0.10 (環境基準)																																														
	II期	<0.0001	0.0100	0.0100	0.0285																																																
	III期	<0.0001	0.0100	0.0100	0.0285																																																

表 9-1 総合評価 (2)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																																																																																
大気質	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>  <b>(1) 埋立・覆土用機械の稼働に伴う排出ガスの影響</b>                      埋立・覆土用機械の稼働により発生する排出ガス（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質）の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p><b>&lt;二酸化窒素の予測結果&gt;</b> 単位:ppm</p> <table border="1" data-bbox="884 363 1810 646"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>年平均値予測結果</th> <th>日平均値予測結果(年間98%値)</th> <th>環境保全に関する目標(日平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A. 2 (住居側敷地境界)</td> <td>I 期</td> <td>0.00030</td> <td>0.0015</td> <td>0.0018</td> <td>0.0106</td> <td rowspan="6">0.04 (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>II 期</td> <td>0.00011</td> <td>0.0015</td> <td>0.0016</td> <td>0.0104</td> </tr> <tr> <td>III 期</td> <td>0.00006</td> <td>0.0015</td> <td>0.0016</td> <td>0.0104</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">A. 4 (柵沢自治公民館)</td> <td>I 期</td> <td>0.00008</td> <td>0.0015</td> <td>0.0016</td> <td>0.0104</td> </tr> <tr> <td>II 期</td> <td>0.00005</td> <td>0.0015</td> <td>0.0016</td> <td>0.0104</td> </tr> <tr> <td>III 期</td> <td>0.00004</td> <td>0.0015</td> <td>0.0015</td> <td>0.0104</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>&lt;浮遊粒子状物質の予測結果&gt;</b> 単位:mg/m<sup>3</sup></p> <table border="1" data-bbox="884 688 1810 972"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>年平均値予測結果</th> <th>日平均値予測結果(2%除外値)</th> <th>環境保全に関する目標(日平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A. 2 (住居側敷地境界)</td> <td>I 期</td> <td>0.00002</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> <td rowspan="6">0.10 (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>II 期</td> <td>0.00001</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> <tr> <td>III 期</td> <td>0.00001</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">A. 4 (柵沢自治公民館)</td> <td>I 期</td> <td>0.00001</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> <tr> <td>II 期</td> <td>&lt;0.00001</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> <tr> <td>III 期</td> <td>&lt;0.00001</td> <td>0.010</td> <td>0.0100</td> <td>0.0285</td> </tr> </tbody> </table>		予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(年間98%値)	環境保全に関する目標(日平均値)	A. 2 (住居側敷地境界)	I 期	0.00030	0.0015	0.0018	0.0106	0.04 (環境基準)	II 期	0.00011	0.0015	0.0016	0.0104	III 期	0.00006	0.0015	0.0016	0.0104	A. 4 (柵沢自治公民館)	I 期	0.00008	0.0015	0.0016	0.0104	II 期	0.00005	0.0015	0.0016	0.0104	III 期	0.00004	0.0015	0.0015	0.0104	予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(2%除外値)	環境保全に関する目標(日平均値)	A. 2 (住居側敷地境界)	I 期	0.00002	0.010	0.0100	0.0285	0.10 (環境基準)	II 期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285	III 期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285	A. 4 (柵沢自治公民館)	I 期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285	II 期	<0.00001	0.010	0.0100	0.0285	III 期	<0.00001	0.010	0.0100	0.0285	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>  <b>(1) 埋立・覆土用機械の稼働に伴う排出ガスの影響</b>                      ・排出ガス対策型建設機械の使用                      ・不要なアイドリングの停止</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>  <b>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</b>                      左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p><b>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価</b>                      すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。</p> <p><b>&lt;環境保全に関する基準又は目標&gt;</b>                      ・大気汚染に係る環境基準（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）                      ・スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標</p>	<p>事後調査を実施する必要性はないと判断した。</p>
	予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(年間98%値)	環境保全に関する目標(日平均値)																																																																														
	A. 2 (住居側敷地境界)	I 期	0.00030	0.0015	0.0018	0.0106	0.04 (環境基準)																																																																														
		II 期	0.00011	0.0015	0.0016	0.0104																																																																															
III 期		0.00006	0.0015	0.0016	0.0104																																																																																
A. 4 (柵沢自治公民館)	I 期	0.00008	0.0015	0.0016	0.0104																																																																																
	II 期	0.00005	0.0015	0.0016	0.0104																																																																																
	III 期	0.00004	0.0015	0.0015	0.0104																																																																																
予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(2%除外値)	環境保全に関する目標(日平均値)																																																																															
A. 2 (住居側敷地境界)	I 期	0.00002	0.010	0.0100	0.0285	0.10 (環境基準)																																																																															
	II 期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285																																																																																
	III 期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285																																																																																
A. 4 (柵沢自治公民館)	I 期	0.00001	0.010	0.0100	0.0285																																																																																
	II 期	<0.00001	0.010	0.0100	0.0285																																																																																
	III 期	<0.00001	0.010	0.0100	0.0285																																																																																
<p><b>(2) 埋立・覆土用機械の稼働に伴う粉じんの影響</b>                      平成 29 年度の気象観測結果を用いて、風向、風速階級（ビューフォート風力階級）別の時間出現率を整理した結果、埋立時における粉じんの発生が予測される砂埃が立つ条件（風力階級風力 4 以上）は、年間 21 時間（全体の 0.2%）となり、その際の風向きは南東（SE）及び南南東（SSE）からの風であり保全対象方向には吹かない。                      本事業においては、必要に応じて散水をすることで粉じんの発生は抑えられるが、さらに粉じんの発生しにくい風況となっており、埋立時の粉じんの飛散は限りなく少ないと考えられる。</p>		<p><b>(2) 埋立・覆土用機械の稼働に伴う粉じんの影響</b>                      ・埋立区域への散水の実施                      ・飛散防止設備（ネットフェンス）の設置</p>																																																																																			
<p><b>(3) 廃棄物の運搬車両の走行に伴う排出ガスの影響</b>                      廃棄物運搬車両の走行に伴い発生する排出ガス（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質）の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p><b>&lt;二酸化窒素の予測結果&gt;</b> 単位:ppm</p> <table border="1" data-bbox="884 1388 1810 1566"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>年平均値予測結果</th> <th>日平均値予測結果(年間98%値)</th> <th>環境保全に関する目標(日平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A. 7 (西側道路沿道)</td> <td>I 期 ～ III 期</td> <td>&lt;0.0001</td> <td>0.0021</td> <td>0.0021</td> <td>0.0113</td> <td>0.04 (環境基準)</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>&lt;浮遊粒子状物質の予測結果&gt;</b> 単位:mg/m<sup>3</sup></p> <table border="1" data-bbox="884 1608 1810 1787"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>年平均値予測結果</th> <th>日平均値予測結果(2%除外値)</th> <th>環境保全に関する目標(日平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A. 7 (西側道路沿道)</td> <td>I 期 ～ III 期</td> <td>&lt;0.0001</td> <td>0.010</td> <td>0.010</td> <td>0.0285</td> <td>0.10 (環境基準)</td> </tr> </tbody> </table>		予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(年間98%値)	環境保全に関する目標(日平均値)	A. 7 (西側道路沿道)	I 期 ～ III 期	<0.0001	0.0021	0.0021	0.0113	0.04 (環境基準)	予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(2%除外値)	環境保全に関する目標(日平均値)	A. 7 (西側道路沿道)	I 期 ～ III 期	<0.0001	0.010	0.010	0.0285	0.10 (環境基準)	<p><b>(3) 廃棄物の運搬車両の走行に伴う排出ガスの影響</b>                      ・低公害車の導入推進</p>																																																							
予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(年間98%値)	環境保全に関する目標(日平均値)																																																																															
A. 7 (西側道路沿道)	I 期 ～ III 期	<0.0001	0.0021	0.0021	0.0113	0.04 (環境基準)																																																																															
予測地点	予測時期	寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均値予測結果	日平均値予測結果(2%除外値)	環境保全に関する目標(日平均値)																																																																															
A. 7 (西側道路沿道)	I 期 ～ III 期	<0.0001	0.010	0.010	0.0285	0.10 (環境基準)																																																																															
<p><b>(4) 廃棄物の運搬車両の走行に伴う粉じんの影響</b>                      廃棄物の運搬車両により発生する粉じんは、退出する運搬車両のタイヤ洗浄等の実施により周辺への飛散が防止されることで、全期にわたり環境保全に関する目標を下回るものと考えられる。</p>		<p><b>(4) 廃棄物の運搬車両の走行に伴う粉じんの影響</b>                      ・廃棄物運搬車両のタイヤ洗浄                      ・飛散防止設備（ネットフェンス）の設置</p>																																																																																			

表 9-1 総合評価 (3)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																																																																										
騒音	<p><b>A. 騒音（環境騒音、道路交通騒音）</b> 対象事業実施区域周辺の環境騒音(対象事業実施区域の住居側敷地境界)及び道路交通騒音(車両走行ルート沿道2箇所)の測定結果は、下表に示すとおりであった。</p> <p style="text-align: right;">評価値：L<sub>Aeq</sub></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SV. 1(住居側敷地境界)</td> <td>37dB</td> <td>34dB</td> <td>37dB</td> <td>34dB</td> </tr> <tr> <td>SV. 2(西側道路沿道1)</td> <td>56dB</td> <td>34dB</td> <td>52dB</td> <td>35dB</td> </tr> <tr> <td>SV. 3(西側道路沿道2)</td> <td>56dB</td> <td>37dB</td> <td>52dB</td> <td>35dB</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	平日		休日		昼間	夜間	昼間	夜間	SV. 1(住居側敷地境界)	37dB	34dB	37dB	34dB	SV. 2(西側道路沿道1)	56dB	34dB	52dB	35dB	SV. 3(西側道路沿道2)	56dB	37dB	52dB	35dB	<p><b>【工事の実施】</b> <b>(1) 建設機械の稼働に伴う影響</b> 建設機械の稼働により発生する騒音の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜建設作業騒音の予測結果＞ 評価値：L<sub>5</sub></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">SV. 1 (住居側敷地境界)</td> <td rowspan="3">I 期</td> <td>昼間</td> <td>65dB</td> <td rowspan="3">85dB (規制基準)</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>54dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>54dB</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜環境騒音の予測結果＞ 評価値：L<sub>Aeq</sub></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>暗騒音</th> <th>寄与値</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">SV. 5 (最寄住居)</td> <td rowspan="3">I 期</td> <td>昼間</td> <td>37dB</td> <td>54dB</td> <td>54dB</td> <td rowspan="6">55dB (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>37dB</td> <td>47dB</td> <td>47dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>37dB</td> <td>47dB</td> <td>48dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">SV. 6 (柵沢自治公民館)</td> <td rowspan="3">I 期</td> <td>昼間</td> <td>37dB</td> <td>42dB</td> <td>43dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>37dB</td> <td>39dB</td> <td>41dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>37dB</td> <td>39dB</td> <td>41dB</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 1 (住居側敷地境界)	I 期	昼間	65dB	85dB (規制基準)	夜間	54dB	夜間	54dB	予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 5 (最寄住居)	I 期	昼間	37dB	54dB	54dB	55dB (環境基準)	夜間	37dB	47dB	47dB	夜間	37dB	47dB	48dB	SV. 6 (柵沢自治公民館)	I 期	昼間	37dB	42dB	43dB	夜間	37dB	39dB	41dB	夜間	37dB	39dB	41dB	<p><b>【工事の実施】</b> <b>(1) 建設機械の稼働に伴う影響</b> ・低騒音型建設機械の使用</p>	<p><b>【工事の実施】</b> <b>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</b> 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p><b>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価</b> すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。</p> <p>＜環境保全に関する基準又は目標＞ ・特定建設作業に係る騒音の規制基準 ・騒音に係る環境基準</p>	事後調査を実施する必要性はないと判断した。
	調査地点		平日		休日																																																																										
		昼間	夜間	昼間	夜間																																																																										
SV. 1(住居側敷地境界)	37dB	34dB	37dB	34dB																																																																											
SV. 2(西側道路沿道1)	56dB	34dB	52dB	35dB																																																																											
SV. 3(西側道路沿道2)	56dB	37dB	52dB	35dB																																																																											
予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標																																																																											
SV. 1 (住居側敷地境界)	I 期	昼間	65dB	85dB (規制基準)																																																																											
		夜間	54dB																																																																												
		夜間	54dB																																																																												
予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標																																																																									
SV. 5 (最寄住居)	I 期	昼間	37dB	54dB	54dB	55dB (環境基準)																																																																									
		夜間	37dB	47dB	47dB																																																																										
		夜間	37dB	47dB	48dB																																																																										
SV. 6 (柵沢自治公民館)	I 期	昼間	37dB	42dB	43dB																																																																										
		夜間	37dB	39dB	41dB																																																																										
		夜間	37dB	39dB	41dB																																																																										
<p><b>B. 交通量・車速</b> 「大気質」の調査結果参照。</p>	<p><b>(2) 工事用車両の走行に伴う影響</b> 工事用車両の走行に伴い発生する騒音の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜道路交通騒音の予測結果＞ 評価値：L<sub>Aeq</sub></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>暗騒音※</th> <th>寄与値</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">SV. 2 (西側道路沿道)</td> <td rowspan="3">I 期</td> <td>昼間</td> <td>54.8dB</td> <td>1.7dB</td> <td>57dB</td> <td rowspan="3">60dB (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>54.8dB</td> <td>0.9dB</td> <td>56dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>54.8dB</td> <td>0.9dB</td> <td>56dB</td> </tr> </tbody> </table> <p>※暗騒音は現地測定結果をもとに市道拡幅後の官民境界位置での値を算出した値を用いた。</p>	予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音※	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 2 (西側道路沿道)	I 期	昼間	54.8dB	1.7dB	57dB	60dB (環境基準)	夜間	54.8dB	0.9dB	56dB	夜間	54.8dB	0.9dB	56dB	<p><b>(2) 工事用車両の走行に伴う影響</b> ・交通規制の遵守 ・空ふかし等の禁止</p>																																																							
予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音※	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標																																																																									
SV. 2 (西側道路沿道)	I 期	昼間	54.8dB	1.7dB	57dB	60dB (環境基準)																																																																									
		夜間	54.8dB	0.9dB	56dB																																																																										
		夜間	54.8dB	0.9dB	56dB																																																																										
<p><b>C. 地表面の状況</b> 調査対象の道路は平面構造の2車線道路であり、アスファルト舗装道路の音を反射する地面であった。背後地は柔らかい土の地面となっており、吸音性のある地表面であった。</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> <b>(1) 埋立・覆土用機械の稼働及び浸出水処理施設の稼働に伴う影響</b> 供用時における施設の稼働に伴い発生する騒音の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜施設稼働騒音の予測結果＞ 評価値：L<sub>5</sub></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9">SV. 1 (住居側敷地境界)</td> <td rowspan="3">I 期</td> <td>朝</td> <td>— (寄与なし)</td> <td rowspan="9">朝・夕：50dB 昼間：55dB 夜間：45dB (規制基準)</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>45dB</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>— (寄与なし)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">II 期</td> <td>朝</td> <td>— (寄与なし)</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>42dB</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>— (寄与なし)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">III 期</td> <td>朝</td> <td>— (寄与なし)</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>40dB</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>— (寄与なし)</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 1 (住居側敷地境界)	I 期	朝	— (寄与なし)	朝・夕：50dB 昼間：55dB 夜間：45dB (規制基準)	昼間	45dB	夕	— (寄与なし)	II 期	朝	— (寄与なし)	昼間	42dB	夕	— (寄与なし)	III 期	朝	— (寄与なし)	昼間	40dB	夕	— (寄与なし)	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> <b>(1) 埋立・覆土用機械の稼働及び浸出水処理施設の稼働に伴う影響</b> (埋立・覆土用機械) ・低騒音型建設機械の使用 (浸出水処理施設) ・機械類の屋内設置</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> <b>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</b> 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p><b>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価</b> すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。</p> <p>＜環境保全に関する基準又は目標＞ ・特定工場等に係る騒音の規制基準 ・騒音に係る環境基準</p>	事後調査を実施する必要性はないと判断した。																																															
予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標																																																																											
SV. 1 (住居側敷地境界)	I 期	朝	— (寄与なし)	朝・夕：50dB 昼間：55dB 夜間：45dB (規制基準)																																																																											
		昼間	45dB																																																																												
		夕	— (寄与なし)																																																																												
	II 期	朝	— (寄与なし)																																																																												
		昼間	42dB																																																																												
		夕	— (寄与なし)																																																																												
	III 期	朝	— (寄与なし)																																																																												
		昼間	40dB																																																																												
		夕	— (寄与なし)																																																																												

(次頁に続く)

表 9-1 総合評価 (4)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																																																																																		
騒音		<p>＜環境騒音の予測結果＞ 評価値：L<sub>Aeq</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>暗騒音</th> <th>寄与値</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">SV. 5 (最寄住居)</td> <td rowspan="2">I 期</td> <td>昼間</td> <td>37dB</td> <td>39dB</td> <td>41dB</td> <td rowspan="6">昼間:55dB 夜間:45dB (環境基準)</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>34dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>34dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">II 期</td> <td>昼間</td> <td>37dB</td> <td>36dB</td> <td>39dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>34dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>34dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">III 期</td> <td>昼間</td> <td>37dB</td> <td>34dB</td> <td>39dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>34dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>34dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">SV. 6 (樺沢自治公民館)</td> <td rowspan="2">I 期</td> <td>昼間</td> <td>37dB</td> <td>34dB</td> <td>39dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>34dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>34dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">II 期</td> <td>昼間</td> <td>37dB</td> <td>31dB</td> <td>38dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>34dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>34dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">III 期</td> <td>昼間</td> <td>37dB</td> <td>30dB</td> <td>38dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>34dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>34dB</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 廃棄物運搬車両の走行に伴う影響 廃棄物運搬車両の走行に伴い発生する騒音の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜道路交通騒音の予測結果＞ 評価値：L<sub>Aeq</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>暗騒音※</th> <th>寄与値</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SV. 2 (西側道路沿道)</td> <td>I 期～III 期</td> <td>昼間</td> <td>54.8dB</td> <td>2.5dB</td> <td>57dB</td> <td>60dB (環境基準)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※暗騒音は現地測定結果をもとに市道拡幅後の官民境界位置での値を算出した値を用いた。</p>	予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 5 (最寄住居)	I 期	昼間	37dB	39dB	41dB	昼間:55dB 夜間:45dB (環境基準)	夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB	II 期	昼間	37dB	36dB	39dB	夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB	III 期	昼間	37dB	34dB	39dB	夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB	SV. 6 (樺沢自治公民館)	I 期	昼間	37dB	34dB	39dB	夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB	II 期	昼間	37dB	31dB	38dB	夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB	III 期	昼間	37dB	30dB	38dB	夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB	予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音※	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 2 (西側道路沿道)	I 期～III 期	昼間	54.8dB	2.5dB	57dB	60dB (環境基準)	<p>(2) 廃棄物の運搬車両の走行に伴う影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空ふかし等の禁止</li> </ul>		事後調査を実施する必要性はないと判断した。				
予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標																																																																																	
SV. 5 (最寄住居)	I 期	昼間	37dB	39dB	41dB	昼間:55dB 夜間:45dB (環境基準)																																																																																	
		夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB																																																																																		
	II 期	昼間	37dB	36dB	39dB																																																																																		
		夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB																																																																																		
	III 期	昼間	37dB	34dB	39dB																																																																																		
		夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB																																																																																		
SV. 6 (樺沢自治公民館)	I 期	昼間	37dB	34dB	39dB																																																																																		
		夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB																																																																																		
	II 期	昼間	37dB	31dB	38dB																																																																																		
		夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB																																																																																		
	III 期	昼間	37dB	30dB	38dB																																																																																		
		夜間	34dB	— (寄与なし)	34dB																																																																																		
予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音※	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標																																																																																	
SV. 2 (西側道路沿道)	I 期～III 期	昼間	54.8dB	2.5dB	57dB	60dB (環境基準)																																																																																	
振動	<p><b>A. 振動（環境振動、道路交通振動）</b> 対象事業実施区域周辺の環境振動(対象事業実施区域の住居側敷地境界)及び道路交通振動(車両走行ルート沿道2箇所)の測定結果は、下表に示すとおりであった。 評価値：L<sub>10</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SV. 1(住居側敷地境界)</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td>SV. 2(西側道路沿道1)</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td>SV. 3(西側道路沿道2)</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>B. 地盤の状況（地盤卓越振動数）</b> 車両走行ルート沿道における調査結果は 14.0～15.8Hz であった。</p> <p><b>C. 交通量、沿道の状況</b> 「大気質」の調査結果参照。</p>	調査地点	平日		休日		昼間	夜間	昼間	夜間	SV. 1(住居側敷地境界)	<30dB	<30dB	<30dB	<30dB	SV. 2(西側道路沿道1)	<30dB	<30dB	<30dB	<30dB	SV. 3(西側道路沿道2)	<30dB	<30dB	<30dB	<30dB	<p><b>【工事の実施】</b> (1) 建設機械の稼働に伴う影響 建設機械の稼働により発生する振動の影響は、全期で環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜建設作業振動の予測結果＞ 評価値：L<sub>10</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">SV. 1 (住居側敷地境界)</td> <td>I 期</td> <td>昼間</td> <td>49dB</td> <td rowspan="3">75dB以下</td> </tr> <tr> <td>II 期</td> <td>昼間</td> <td>30dB</td> </tr> <tr> <td>III 期</td> <td>昼間</td> <td>30dB</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜環境振動の予測結果＞ 評価値：L<sub>10</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">SV. 5 (最寄住居)</td> <td>I 期</td> <td>昼間</td> <td>34dB</td> <td rowspan="6">55dB (感覚域値)</td> </tr> <tr> <td>II 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td>III 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">SV. 6 (樺沢自治公民館)</td> <td>I 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td>II 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td>III 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 工事用車両の走行に伴う影響 工事用車両の走行に伴い発生する振動の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜道路交通振動の予測結果＞ 評価値：L<sub>10</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">SV. 2 (西側道路沿道)</td> <td>I 期</td> <td>昼間</td> <td>42dB</td> <td rowspan="3">65dB</td> </tr> <tr> <td>II 期</td> <td>昼間</td> <td>38dB</td> </tr> <tr> <td>III 期</td> <td>昼間</td> <td>38dB</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 1 (住居側敷地境界)	I 期	昼間	49dB	75dB以下	II 期	昼間	30dB	III 期	昼間	30dB	予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 5 (最寄住居)	I 期	昼間	34dB	55dB (感覚域値)	II 期	昼間	<30dB	III 期	昼間	<30dB	SV. 6 (樺沢自治公民館)	I 期	昼間	<30dB	II 期	昼間	<30dB	III 期	昼間	<30dB	予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 2 (西側道路沿道)	I 期	昼間	42dB	65dB	II 期	昼間	38dB	III 期	昼間	38dB	<p><b>【工事の実施】</b> (1) 建設機械の稼働に伴う影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低振動型建設機械の使用</li> </ul> <p>(2) 工事用車両の走行に伴う影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通規制の遵守</li> <li>空ふかし等の禁止</li> </ul>	<p><b>【工事の実施】</b> (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価 すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。</p> <p>＜環境保全に関する基準又は目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定建設作業に係る振動の規制基準</li> <li>道路交通振動の要請限度</li> <li>人が振動を感じ始めるとされる感覚閾値</li> </ul>	事後調査を実施する必要性はないと判断した。
調査地点	平日		休日																																																																																				
	昼間	夜間	昼間	夜間																																																																																			
SV. 1(住居側敷地境界)	<30dB	<30dB	<30dB	<30dB																																																																																			
SV. 2(西側道路沿道1)	<30dB	<30dB	<30dB	<30dB																																																																																			
SV. 3(西側道路沿道2)	<30dB	<30dB	<30dB	<30dB																																																																																			
予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標																																																																																			
SV. 1 (住居側敷地境界)	I 期	昼間	49dB	75dB以下																																																																																			
	II 期	昼間	30dB																																																																																				
	III 期	昼間	30dB																																																																																				
予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標																																																																																			
SV. 5 (最寄住居)	I 期	昼間	34dB	55dB (感覚域値)																																																																																			
	II 期	昼間	<30dB																																																																																				
	III 期	昼間	<30dB																																																																																				
SV. 6 (樺沢自治公民館)	I 期	昼間	<30dB																																																																																				
	II 期	昼間	<30dB																																																																																				
	III 期	昼間	<30dB																																																																																				
予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標																																																																																			
SV. 2 (西側道路沿道)	I 期	昼間	42dB	65dB																																																																																			
	II 期	昼間	38dB																																																																																				
	III 期	昼間	38dB																																																																																				

表 9-1 総合評価 (5)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																																																																																																
振動		<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>                      (1) 埋立・覆土用機械の稼働及び浸出水処理施設の稼働に伴う影響                      供用時における施設の稼働に伴い発生する振動の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p><b>&lt;施設稼働振動の予測結果&gt;</b> 評価値：L<sub>10</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>予測結果(寄与値)</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">SV. 1 (住居側敷地境界)</td> <td rowspan="2">I 期</td> <td>昼間</td> <td>12.5dB</td> <td rowspan="6">昼間：60dB 夜間：55dB (規制基準)</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>12.5dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">II 期</td> <td>昼間</td> <td>15.2dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>15.2dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">III 期</td> <td>昼間</td> <td>17.3dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>17.3dB</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>&lt;環境振動の予測結果&gt;</b> 評価値：L<sub>10</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>暗騒音</th> <th>寄与値</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">SV. 5 (最寄住居)</td> <td rowspan="2">I 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>1.0dB</td> <td>30dB</td> <td rowspan="12">55dB (感覚域値)</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>1.0dB</td> <td>30dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">II 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>4.0dB</td> <td>30dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>4.0dB</td> <td>30dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">III 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>6.5dB</td> <td>30dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>6.5dB</td> <td>30dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">SV. 6 (柵沢自治公民館)</td> <td rowspan="2">I 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">II 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">III 期</td> <td>昼間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>&lt;30dB</td> <td>— (寄与なし)</td> <td>&lt;30dB</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 廃棄物運搬車両の走行に伴う影響                      廃棄物運搬車両の走行に伴い発生する騒音の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p><b>&lt;道路交通振動の予測結果&gt;</b> 評価値：L<sub>10</sub></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測時期</th> <th>時間帯</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全に関する目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SV. 2 (西側道路沿道)</td> <td>I 期～III 期</td> <td>昼間</td> <td>42dB</td> <td>65dB (要請限度)</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	時間帯	予測結果(寄与値)	環境保全に関する目標	SV. 1 (住居側敷地境界)	I 期	昼間	12.5dB	昼間：60dB 夜間：55dB (規制基準)	夜間	12.5dB	II 期	昼間	15.2dB	夜間	15.2dB	III 期	昼間	17.3dB	夜間	17.3dB	予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 5 (最寄住居)	I 期	昼間	<30dB	1.0dB	30dB	55dB (感覚域値)	夜間	<30dB	1.0dB	30dB	II 期	昼間	<30dB	4.0dB	30dB	夜間	<30dB	4.0dB	30dB	III 期	昼間	<30dB	6.5dB	30dB	夜間	<30dB	6.5dB	30dB	SV. 6 (柵沢自治公民館)	I 期	昼間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB	夜間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB	II 期	昼間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB	夜間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB	III 期	昼間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB	夜間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB	予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標	SV. 2 (西側道路沿道)	I 期～III 期	昼間	42dB	65dB (要請限度)	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>                      (1) 埋立・覆土用機械の稼働及び浸出水処理施設の稼働に伴う影響                      (埋立・覆土用機械)                      ・低振動型建設機械の使用(浸出水処理施設)                      ・機器類の定期的な管理</p> <p>(2) 廃棄物運搬車両の走行に伴う影響                      ・空ふかし等の禁止</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>                      (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価                      左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価                      すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。</p> <p><b>&lt;環境保全に関する基準又は目標&gt;</b>                      ・特定工場に係る振動の規制基準                      ・道路交通振動の要請限度                      ・人が振動を感じ始めるとされる感覚閾値</p>	事後調査を実施する必要性はないと判断した。
予測地点	予測時期	時間帯	予測結果(寄与値)	環境保全に関する目標																																																																																																	
SV. 1 (住居側敷地境界)	I 期	昼間	12.5dB	昼間：60dB 夜間：55dB (規制基準)																																																																																																	
		夜間	12.5dB																																																																																																		
	II 期	昼間	15.2dB																																																																																																		
		夜間	15.2dB																																																																																																		
	III 期	昼間	17.3dB																																																																																																		
		夜間	17.3dB																																																																																																		
予測地点	予測時期	時間帯	暗騒音	寄与値	予測結果	環境保全に関する目標																																																																																															
SV. 5 (最寄住居)	I 期	昼間	<30dB	1.0dB	30dB	55dB (感覚域値)																																																																																															
		夜間	<30dB	1.0dB	30dB																																																																																																
	II 期	昼間	<30dB	4.0dB	30dB																																																																																																
		夜間	<30dB	4.0dB	30dB																																																																																																
	III 期	昼間	<30dB	6.5dB	30dB																																																																																																
		夜間	<30dB	6.5dB	30dB																																																																																																
SV. 6 (柵沢自治公民館)	I 期	昼間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB																																																																																																
		夜間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB																																																																																																
	II 期	昼間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB																																																																																																
		夜間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB																																																																																																
	III 期	昼間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB																																																																																																
		夜間	<30dB	— (寄与なし)	<30dB																																																																																																
予測地点	予測時期	時間帯	予測結果	環境保全に関する目標																																																																																																	
SV. 2 (西側道路沿道)	I 期～III 期	昼間	42dB	65dB (要請限度)																																																																																																	
悪臭	A. 悪臭 対象事業実施区域は悪臭防止法に基づく規制地域ではないため基準等が存在していないが、規制地域の基準と比較すると特定悪臭物質・臭気指数ともに満足する結果となった。	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>                      (1) 廃棄物の存在・分解に伴う影響                      施設の稼働に伴う悪臭の影響については、供用中の類似事例から考えて、施設内臭気が敷地境界外へ漏洩することは少なく、敷地境界における規制基準等を下回るものと考えられる。</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>                      (1) 廃棄物の存在・分解に伴う影響                      ・腐敗物の埋立の抑制                      ・覆土の実施</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>                      (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価                      左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価                      すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。</p> <p><b>&lt;環境保全に関する基準又は目標&gt;</b>                      ・岩手県の規制基準(規制地域のうち工業地域及び工業専用地域以外の地域)</p>	事後調査を実施する必要性はないと判断した。																																																																																																

表 9-1 総合評価 (6)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																																																																																				
水質	<p><b>A. 河川の水質</b></p> <p>水質測定の結果、栴沢の3地点ではいずれの項目も環境基準を満足していた。赤川の2地点ではpHが環境基準を超えており、その他の項目は環境基準を満足していた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">測定項目</th> <th colspan="3">栴沢</th> <th colspan="2">赤川</th> </tr> <tr> <th>W.1 対象事業 実施区域 の上流側</th> <th>W.2 対象事業 実施区域 の下流側</th> <th>W.4 押口沢と の合流後</th> <th>W.5 栴沢との 合流前</th> <th>W.6 栴沢との 合流後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活環境項目</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○*</td> <td>○*</td> </tr> <tr> <td>健康項目</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>放流水質項目</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>※赤川2地点の生活環境項目は、pHを除いて環境基準を満足した。</p>	測定項目	栴沢			赤川		W.1 対象事業 実施区域 の上流側	W.2 対象事業 実施区域 の下流側	W.4 押口沢と の合流後	W.5 栴沢との 合流前	W.6 栴沢との 合流後	生活環境項目	○	○	○	○*	○*	健康項目	○	○	○	○	○	放流水質項目	○	○	○	○	○	ダイオキシン類	○	○	○	○	○	<p><b>【工事の実施】</b></p> <p>(1) 造成等の施工に伴う濁水の影響</p> <p>平均日降雨量 9.9mm/日の際の造成等の施工に伴う濁水(SS)の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜SS (降雨時) の予測結果＞ 単位：mg/L</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測項目</th> <th>時期</th> <th>予測地点</th> <th>予測濃度</th> <th>環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">SS (降雨時)</td> <td rowspan="3">I期整備時 (防災調整池 整備前)</td> <td>W.3(栴沢：押口沢との合流前)</td> <td>37</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>W.4(栴沢：押口沢との合流後)</td> <td>38</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>W.6(赤川：栴沢との合流後)</td> <td>97</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">I期整備時 (防災調整池 整備後)</td> <td>W.3(栴沢：押口沢との合流前)</td> <td>44</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>W.4(栴沢：押口沢との合流後)</td> <td>42</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>W.6(赤川：栴沢との合流後)</td> <td>97</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">II期整備時</td> <td>W.3(栴沢：押口沢との合流前)</td> <td>79</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>W.4(栴沢：押口沢との合流後)</td> <td>58</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>W.6(赤川：栴沢との合流後)</td> <td>98</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">III期整備時</td> <td>W.3(栴沢：押口沢との合流前)</td> <td>80</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>W.4(栴沢：押口沢との合流後)</td> <td>59</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>W.6(赤川：栴沢との合流後)</td> <td>98</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>※環境基準は平水時を前提とした基準であるが参考までに比較した。</p>	予測項目	時期	予測地点	予測濃度	環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)※	SS (降雨時)	I期整備時 (防災調整池 整備前)	W.3(栴沢：押口沢との合流前)	37	100	W.4(栴沢：押口沢との合流後)	38	100	W.6(赤川：栴沢との合流後)	97	100	I期整備時 (防災調整池 整備後)	W.3(栴沢：押口沢との合流前)	44	100	W.4(栴沢：押口沢との合流後)	42	100	W.6(赤川：栴沢との合流後)	97	100	II期整備時	W.3(栴沢：押口沢との合流前)	79	100	W.4(栴沢：押口沢との合流後)	58	100	W.6(赤川：栴沢との合流後)	98	100	III期整備時	W.3(栴沢：押口沢との合流前)	80	100	W.4(栴沢：押口沢との合流後)	59	100	W.6(赤川：栴沢との合流後)	98	100	<p><b>【工事の実施】</b></p> <p>(1) 造成等の施工に伴う濁水の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・濁水処理設備（処理プラント、仮設沈砂池、防災調整池）の設置</li> </ul>	<p><b>【工事の実施】</b></p> <p>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</p> <p>左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価</p> <p>すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。</p> <p>＜環境保全に関する基準又は目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質汚濁に係る環境基準（D類型） (平水時の基準となるが、参考までに比較した)</li> </ul>	事後調査を実施する必要性はないと判断した。			
	測定項目		栴沢			赤川																																																																																			
		W.1 対象事業 実施区域 の上流側	W.2 対象事業 実施区域 の下流側	W.4 押口沢と の合流後	W.5 栴沢との 合流前	W.6 栴沢との 合流後																																																																																			
	生活環境項目	○	○	○	○*	○*																																																																																			
健康項目	○	○	○	○	○																																																																																				
放流水質項目	○	○	○	○	○																																																																																				
ダイオキシン類	○	○	○	○	○																																																																																				
予測項目	時期	予測地点	予測濃度	環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)※																																																																																					
SS (降雨時)	I期整備時 (防災調整池 整備前)	W.3(栴沢：押口沢との合流前)	37	100																																																																																					
		W.4(栴沢：押口沢との合流後)	38	100																																																																																					
		W.6(赤川：栴沢との合流後)	97	100																																																																																					
	I期整備時 (防災調整池 整備後)	W.3(栴沢：押口沢との合流前)	44	100																																																																																					
		W.4(栴沢：押口沢との合流後)	42	100																																																																																					
		W.6(赤川：栴沢との合流後)	97	100																																																																																					
II期整備時	W.3(栴沢：押口沢との合流前)	79	100																																																																																						
	W.4(栴沢：押口沢との合流後)	58	100																																																																																						
	W.6(赤川：栴沢との合流後)	98	100																																																																																						
III期整備時	W.3(栴沢：押口沢との合流前)	80	100																																																																																						
	W.4(栴沢：押口沢との合流後)	59	100																																																																																						
	W.6(赤川：栴沢との合流後)	98	100																																																																																						
水質	<p><b>B. 地下水の水質</b></p> <p>対象事業実施区域内の2箇所及び対象事業実施区域下流の1箇所における地下水の測定結果は、環境基準を満足していた。</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b></p> <p>(1) 最終処分場の存在による水の汚れの影響、浸出水処理水の排出による水の汚れ等の影響</p> <p>a) 地下水の水質</p> <p>地下水の水質に関しては、浸出水は浸出水処理集排水管を經由して浸出水処理施設へ運ばれること、埋立地下部に遮水性に優れた二重遮水シートを設置し、浸出水の地下水への流出を防止することから、影響は生じない。</p> <p>b) 河川の水質</p> <p>河川水の水質(BOD)の影響については、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜BODの予測結果＞ 単位：mg/L</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">予測時期</th> <th colspan="5">予測濃度</th> <th rowspan="2">環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">W.6 (赤川：栴沢 との合流後)</td> <td>I期</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.9</td> <td>0.6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>II期</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.9</td> <td>0.6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>III期</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.5</td> <td>1</td> <td>0.7</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	予測濃度					環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)	春季	夏季	秋季	冬季	平均値	W.6 (赤川：栴沢 との合流後)	I期	0.5	0.5	0.5	0.9	0.6	8	II期	0.5	0.5	0.5	0.9	0.6	8	III期	0.6	0.6	0.5	1	0.7	8	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b></p> <p>(1) 最終処分場の存在による水の汚れの影響、浸出水処理水の排出による水の汚れ等の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下水浸透防止対策（二重遮水シート、漏水検知システム）の実施</li> <li>・浸出水処理施設による水処理</li> </ul>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b></p> <p>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</p> <p>左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p>(B) 環境保全に関する基準又は目標との整合性に係る評価</p> <p>すべての時期及び予測項目において、下記の環境保全に関する基準又は目標を満足していることから、整合性は図られているものと評価する。</p> <p>＜環境保全に関する基準又は目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質汚濁に係る環境基準（D類型）</li> </ul>																																																		
	予測地点	予測時期			予測濃度						環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)																																																																														
			春季	夏季	秋季	冬季	平均値																																																																																		
	W.6 (赤川：栴沢 との合流後)	I期	0.5	0.5	0.5	0.9	0.6	8																																																																																	
II期		0.5	0.5	0.5	0.9	0.6	8																																																																																		
III期		0.6	0.6	0.5	1	0.7	8																																																																																		
水質	<p><b>C. 降雨時の浮遊物質及び流量</b></p> <p>降雨時（総雨量 40mm 程度）における栴沢及び赤川の浮遊物質及び流量は、下表に示すとおりであった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>河川</th> <th>地点</th> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>測定結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">栴沢</td> <td rowspan="2">W.1 (栴沢：対象事業 実施区域の上流側)</td> <td>浮遊物質</td> <td>mg/L</td> <td>15~76</td> </tr> <tr> <td>流量</td> <td>m<sup>3</sup>/s</td> <td>0.077~0.32</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">W.2 (栴沢：対象事業 実施区域の下流側)</td> <td>浮遊物質</td> <td>mg/L</td> <td>15~85</td> </tr> <tr> <td>流量</td> <td>m<sup>3</sup>/s</td> <td>0.11~0.24</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">W.3 (栴沢：押口沢と の合流前)</td> <td>浮遊物質</td> <td>mg/L</td> <td>34~130</td> </tr> <tr> <td>流量</td> <td>m<sup>3</sup>/s</td> <td>0.26~0.49</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">W.4 (栴沢：赤川への 流入前)</td> <td>浮遊物質</td> <td>mg/L</td> <td>37~180</td> </tr> <tr> <td>流量</td> <td>m<sup>3</sup>/s</td> <td>0.62~1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">赤川</td> <td rowspan="2">W.5 (赤川：栴沢との 合流前)</td> <td>浮遊物質</td> <td>mg/L</td> <td>100~360</td> </tr> <tr> <td>流量</td> <td>m<sup>3</sup>/s</td> <td>15~25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">W.6 (赤川：栴沢との 合流後)</td> <td>浮遊物質</td> <td>mg/L</td> <td>72~370</td> </tr> <tr> <td>流量</td> <td>m<sup>3</sup>/s</td> <td>18~27</td> </tr> </tbody> </table>	河川	地点	項目	単位	測定結果	栴沢	W.1 (栴沢：対象事業 実施区域の上流側)	浮遊物質	mg/L	15~76	流量	m <sup>3</sup> /s	0.077~0.32	W.2 (栴沢：対象事業 実施区域の下流側)	浮遊物質	mg/L	15~85	流量	m <sup>3</sup> /s	0.11~0.24	W.3 (栴沢：押口沢と の合流前)	浮遊物質	mg/L	34~130	流量	m <sup>3</sup> /s	0.26~0.49	W.4 (栴沢：赤川への 流入前)	浮遊物質	mg/L	37~180	流量	m <sup>3</sup> /s	0.62~1	赤川	W.5 (赤川：栴沢との 合流前)	浮遊物質	mg/L	100~360	流量	m <sup>3</sup> /s	15~25	W.6 (赤川：栴沢との 合流後)	浮遊物質	mg/L	72~370	流量	m <sup>3</sup> /s	18~27	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b></p> <p>(2) 浸出水処理水の排出による水の濁りの影響</p> <p>浸出水処理水の排出による水の濁り（浮遊物質）の影響は、全期にわたり環境保全に関する目標を下回った。</p> <p>＜浮遊物質の予測結果＞ 単位：mg/L</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">予測時期</th> <th colspan="5">予測濃度</th> <th rowspan="2">環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">W.6 (赤川：栴沢 との合流後)</td> <td>I期</td> <td>23</td> <td>48</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>25</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>II期</td> <td>23</td> <td>48</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>25</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>III期</td> <td>23</td> <td>48</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>25</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測時期	予測濃度					環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)	春季	夏季	秋季	冬季	平均値	W.6 (赤川：栴沢 との合流後)	I期	23	48	16	13	25	100	II期	23	48	16	13	25	100	III期	23	48	16	13	25	100	<p>(2) 浸出水処理水の排出による水の濁りの影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸出水処理施設による水処理</li> </ul>		
	河川	地点	項目	単位	測定結果																																																																																				
	栴沢	W.1 (栴沢：対象事業 実施区域の上流側)	浮遊物質	mg/L	15~76																																																																																				
			流量	m <sup>3</sup> /s	0.077~0.32																																																																																				
W.2 (栴沢：対象事業 実施区域の下流側)		浮遊物質	mg/L	15~85																																																																																					
		流量	m <sup>3</sup> /s	0.11~0.24																																																																																					
W.3 (栴沢：押口沢と の合流前)		浮遊物質	mg/L	34~130																																																																																					
		流量	m <sup>3</sup> /s	0.26~0.49																																																																																					
W.4 (栴沢：赤川への 流入前)	浮遊物質	mg/L	37~180																																																																																						
	流量	m <sup>3</sup> /s	0.62~1																																																																																						
赤川	W.5 (赤川：栴沢との 合流前)	浮遊物質	mg/L	100~360																																																																																					
		流量	m <sup>3</sup> /s	15~25																																																																																					
	W.6 (赤川：栴沢との 合流後)	浮遊物質	mg/L	72~370																																																																																					
		流量	m <sup>3</sup> /s	18~27																																																																																					
予測地点	予測時期	予測濃度					環境保全に関する目標 (環境基準：D類型)																																																																																		
		春季	夏季	秋季	冬季	平均値																																																																																			
W.6 (赤川：栴沢 との合流後)	I期	23	48	16	13	25	100																																																																																		
	II期	23	48	16	13	25	100																																																																																		
	III期	23	48	16	13	25	100																																																																																		
水質	<p><b>D. 土質の状況</b></p> <p>現地で採取した表層土の沈降試験結果は下表に示すとおりであった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">沈降開始後の 時間 (分)</th> <th colspan="2">浮遊物質 (mg/L)</th> </tr> <tr> <th>S.1 (水田部)</th> <th>S.2 (斜面の樹林部)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>180</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>2.5</td> <td>110</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>75</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>49</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>39</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>26</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>120</td> <td>17</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>240</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>360</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>1440</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2880</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	沈降開始後の 時間 (分)	浮遊物質 (mg/L)		S.1 (水田部)	S.2 (斜面の樹林部)	1	180	78	2.5	110	44	5	75	34	10	49	29	30	39	24	60	26	16	120	17	12	240	12	6	360	7	5	1440	2	1	2880	1	1																																																		
	沈降開始後の 時間 (分)		浮遊物質 (mg/L)																																																																																						
		S.1 (水田部)	S.2 (斜面の樹林部)																																																																																						
	1	180	78																																																																																						
2.5	110	44																																																																																							
5	75	34																																																																																							
10	49	29																																																																																							
30	39	24																																																																																							
60	26	16																																																																																							
120	17	12																																																																																							
240	12	6																																																																																							
360	7	5																																																																																							
1440	2	1																																																																																							
2880	1	1																																																																																							

表 9-1 総合評価 (7)

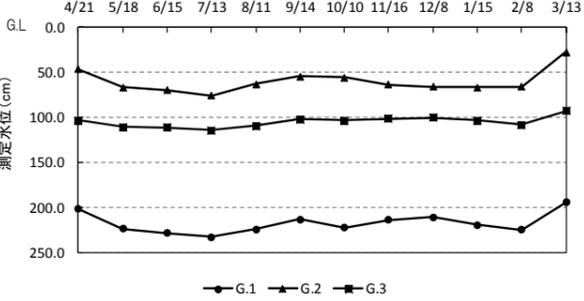
項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査
地下水 水位	<p><b>A. 地下水の状況</b></p> <p>地下水位は対象事業実施区域内の上流部、対象事業実施区域内の下流部、対象事業実施区域の下流側で測定した地下水位の年間の変動状況は下図のとおりである。</p> <p>変動幅は G.1 で 38.0cm、G.2 で 48.2cm、G.3 で 18.4cm であった。</p>  <p>注：各地点の地表標高は、G.1=334.1m、G.2=293.53m、G.3=279.4mである。</p> <p><b>B. 地下水の利用状況</b></p> <p>対象事業実施区域周辺には 22 地点の井戸が存在する。用途は主に飲用水及び農業用水であった。また、対象事業実施区域に最も近い井戸との距離は約 200m であった。</p> <p><b>C. 地下水位の状況</b></p> <p>対象事業実施区域周辺に分布する帯水層の特性は以下のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主帯水層は、河床堆積物の砂礫層(透水係数は <math>10^{-3} \sim 10^{-4}</math> cm/s オーダー)である。</li> <li>基盤岩も透水性が高く(透水係数は <math>10^{-4}</math>cm/s オーダー)、帯水層となっている。基盤岩中の地下水も構成粒子の間隙を流れる層状水である。</li> <li>河床堆積物中の地下水と基盤岩中の地下水は、基本的には連続しており、不圧状態の自由地下水である。</li> </ul>	<p><b>【工事の実施】</b></p> <p>(1) 造成等の施工に伴う地下水の流れの影響</p> <p>本事業では、造成工事により事業地内低地部の水位面が掘削されるが、掘削部は自由地下水であり、事業地下部には火山礫凝灰岩 (Lt) 等の透水性の高い層が深く存在していることから、地下水の流れは阻害されないと考えられる。また、掘削面から湧出する地下水はポンプ等で排除した場合においても、水位低下は掘削部の近傍にとどまると考えられる。このため、地下水の流れの影響は対象事業実施区域の周辺に及ばない予測される。</p> <p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b></p> <p>(1) 最終処分場の存在に伴う地下水の流れの影響</p> <p>本事業では、埋立構造物下の地下水集排水管による地下水の引き込みにより、構造物の基礎高さ (1~10m 程度) まで水位の低下が想定される。施設の下部には、火山礫凝灰岩 (Lt) 等の透水性の高い層が深く存在することから、地下水位の低下は地下水集排水管の近傍にとどまると考えられる。このため、地下水の流れの影響は対象事業実施区域の周辺には及ばないと予測される。</p>	<p><b>【工事の実施】</b></p> <p>(1) 造成等の施工に伴う地下水の流れの影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>造成法面の緑化による雨水の地下浸透の促進</li> </ul> <p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b></p> <p>(1) 最終処分場の存在に伴う地下水の流れの影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地下水位のモニタリングによる異常の早期発見</li> </ul>	<p><b>【工事の実施】</b></p> <p>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</p> <p>左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p> <p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b></p> <p>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</p> <p>左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p>	<p>事後調査を実施する必要性はないと判断した。</p>

表 9-1 総合評価 (8)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																																																																
動物	<b>A. 動物相</b> 現況調査の結果、以下の動物種が確認された。 <table border="1" data-bbox="320 262 798 506"> <tr><td>哺乳類</td><td>6目</td><td>12科</td><td>20種</td></tr> <tr><td>鳥類（一般鳥類）</td><td>11目</td><td>29科</td><td>71種</td></tr> <tr><td>鳥類（猛禽類）</td><td>1目</td><td>2科</td><td>10種</td></tr> <tr><td>陸上昆虫類</td><td>16目</td><td>175科</td><td>985種</td></tr> <tr><td>爬虫類</td><td>1目</td><td>2科</td><td>4種</td></tr> <tr><td>両生類</td><td>2目</td><td>6科</td><td>10種</td></tr> <tr><td>底生動物</td><td>18目</td><td>77科</td><td>131種</td></tr> <tr><td>魚類</td><td>3目</td><td>4科</td><td>6種</td></tr> </table> <b>B. 重要な動物種</b> 現況調査の結果、以下の重要な動物種が確認された。 <table border="1" data-bbox="320 632 798 875"> <tr><td>哺乳類</td><td>3目</td><td>4科</td><td>4種</td></tr> <tr><td>鳥類（一般鳥類）</td><td>6目</td><td>8科</td><td>11種</td></tr> <tr><td>鳥類（猛禽類）</td><td>1目</td><td>2科</td><td>10種</td></tr> <tr><td>陸上昆虫類</td><td>3目</td><td>9科</td><td>10種</td></tr> <tr><td>爬虫類</td><td>0目</td><td>0科</td><td>0種</td></tr> <tr><td>両生類</td><td>2目</td><td>4科</td><td>4種</td></tr> <tr><td>底生動物</td><td>4目</td><td>7科</td><td>9種</td></tr> <tr><td>魚類</td><td>3目</td><td>4科</td><td>4種</td></tr> </table> <b>C. 注目すべき生息地・生息環境の状況</b> 事業地上流部（改変区域外）の湿地環境において重要種が多く確認された。	哺乳類	6目	12科	20種	鳥類（一般鳥類）	11目	29科	71種	鳥類（猛禽類）	1目	2科	10種	陸上昆虫類	16目	175科	985種	爬虫類	1目	2科	4種	両生類	2目	6科	10種	底生動物	18目	77科	131種	魚類	3目	4科	6種	哺乳類	3目	4科	4種	鳥類（一般鳥類）	6目	8科	11種	鳥類（猛禽類）	1目	2科	10種	陸上昆虫類	3目	9科	10種	爬虫類	0目	0科	0種	両生類	2目	4科	4種	底生動物	4目	7科	9種	魚類	3目	4科	4種	<b>【工事の実施】</b> (1) 造成等の施工、建設機械の稼働、工車用車両の走行に伴う影響 対象事業実施区域周辺で確認された重要な種のうち、猛禽類2種（ハチクマ、ノスリ）の営巣地が事業地に近接し、営巣の状況によっては影響が生じる恐れがある。 水生生物に関しては、仮設沈砂池や防災調整池の設置により、環境基準を超える浮遊物質が流れ込まない計画であり、影響が小さいものと考えられる。	<b>【工事の実施】</b> (1) 造成等の施工、建設機械の稼働、工車用車両の走行に伴う影響 ・残置林の設置 ・低騒音型の建設機械の使用 ・濁水処理設備（処理プラント、仮設沈砂池、防災調整池）の設置	<b>【工事の実施】</b> (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価 左記の環境配慮事項の実施に加え、工事の影響を受ける可能性のある猛禽類に対しては環境保全措置を実施することから、環境への影響が回避・低減されると評価する。	猛禽類について工事中調査実施し、適宜保全対策の必要性を判断する。
		哺乳類	6目	12科	20種																																																																
鳥類（一般鳥類）	11目	29科	71種																																																																		
鳥類（猛禽類）	1目	2科	10種																																																																		
陸上昆虫類	16目	175科	985種																																																																		
爬虫類	1目	2科	4種																																																																		
両生類	2目	6科	10種																																																																		
底生動物	18目	77科	131種																																																																		
魚類	3目	4科	6種																																																																		
哺乳類	3目	4科	4種																																																																		
鳥類（一般鳥類）	6目	8科	11種																																																																		
鳥類（猛禽類）	1目	2科	10種																																																																		
陸上昆虫類	3目	9科	10種																																																																		
爬虫類	0目	0科	0種																																																																		
両生類	2目	4科	4種																																																																		
底生動物	4目	7科	9種																																																																		
魚類	3目	4科	4種																																																																		
<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (1) 最終処分場の存在に伴う影響 陸上生物に関しては、残置林の設置等により生息環境が維持されるため影響が小さいものと考えられる。水生生物に関しては、発生する浸出水は暗渠を通り赤川へ放流されることから、影響が小さいものと考えられる。	<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (1) 最終処分場の存在に伴う影響 ・残置林の設置 ・暗渠による浸出水処理水の赤川への排水	<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。																																																																			
植物	<b>A. 植物相</b> 現況調査の結果、115科629種の植物が確認された。	<b>【工事の実施】</b> (1) 造成等の施工に伴う影響 対象事業実施区域内で確認された重要な種のうち、ミチノクフクジュソウ、ベニバナヤマジャクヤク、イヌハギ、サクラソウ、ホソバツルリンドウ、オオニガナ、サルメンエビネ、ギンラン、サカネランの9種については、主要な生息地が消失または改変により消失する個体数の割合が高いことから影響が生じるものと予測される。	<b>【工事の実施】</b> (1) 造成等の施工に伴う影響 ・残置林の設置	<b>【工事の実施】</b> (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価 左記の環境配慮事項の実施に加え、改変割合の高い植物の重要種に対しては環境保全措置を実施することから、環境への影響が回避・低減されると評価する。	移植した重要種について移植後の生育状況の確認として事後調査を実施する。																																																																
		<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (1) 最終処分場の存在に伴う影響 工事の実施と同様である。	<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (1) 最終処分場の存在に伴う影響 ・残置林の設置	<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。																																																																	
	<b>B. 植生・植物群落</b> 対象事業実施区域の植生は、アカマツ群落、コナラ群落が広く分布していた。		<b>【環境保全措置】</b> ・改変割合の高い重要種（9種）の移植																																																																		
	<b>C. 重要な種</b> 現況調査の結果、12科18種の重要な種が確認された。																																																																				
	<b>D. 重要な群落</b> 注目すべき群落は確認されなかった。																																																																				

表 9-1 総合評価 (9)

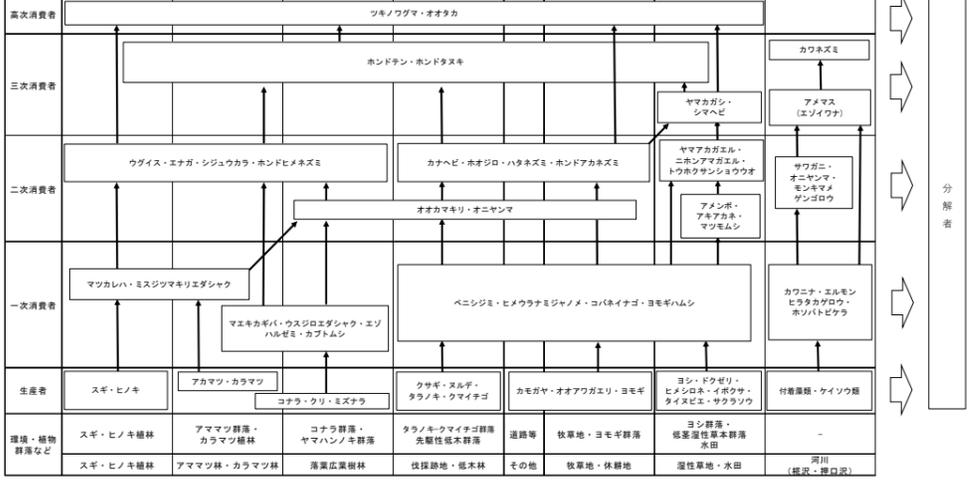
項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																								
生態系	<p><b>A. 構造</b> 対象事業実施区域及びその周辺区域を構成する生態系を類型化し、類型区分ごとの構造を整理した。類型区分は、スギ・ヒノキ植林、アカマツ・カラマツ林、落葉広葉樹林、伐採跡地・低木林、牧草地・耕作地、湿性草地・草地、その他の7環境に区分される。</p> <p><b>B. 相互関係</b> 対象事業実施区域及びその周辺区域を構成する動植物種の生態系間の相互関係は以下のとおりである。</p>	<p><b>【工事の実施】</b> (1) 造成等の施工に伴う影響 本事業により動植物の生息環境の一部が改変されるが、本地域の動植物の主な生息場となる樹林地は周辺にも連続して広く分布していることから、生態系への影響は小さいものと予測される。</p>	<p><b>【工事の実施】</b> (1) 造成等の施工に伴う影響 ・残置林の設置 ・濁水処理設備（処理プラント、仮設沈砂池、防災調整池）の設置</p>	<p><b>【工事の実施】</b> (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p>	<p>事後調査を実施する必要性はないと判断した。</p>																								
	 <p>分解者</p> <table border="1" data-bbox="255 840 1228 940"> <tr> <th>生産者</th> <td>スギ・ヒノキ</td> <td>アカマツ・カラマツ</td> <td>クサギ・スズメ、タラノキ・クマイチゴ</td> <td>カモガヤ・オオアワガエリ・ヨモギ</td> <td>ヨシ・ドクゼリ、ヒメシロネ・イボクサ、タイヌビエ・サクラソウ</td> <td>付着藻類・ケイソウ類</td> </tr> <tr> <th>環境・植物群落など</th> <td>スギ・ヒノキ植林</td> <td>アカマツ群落・カラマツ群落</td> <td>コナラ群落・ヤマハシノキ群落</td> <td>タラノキ・クマイチゴ群落 先駆性低木群落</td> <td>道路等 牧草地・ヨモギ群落</td> <td>ヨシ群落・低湿性草本群落 水田</td> </tr> <tr> <td></td> <td>スギ・ヒノキ植林</td> <td>アカマツ群落・カラマツ群落</td> <td>落葉広葉樹林</td> <td>伐採跡地・低木林</td> <td>その他</td> <td>牧草地・休耕地 湿性草地・水田 (堤防・排水路)</td> </tr> </table>	生産者	スギ・ヒノキ	アカマツ・カラマツ	クサギ・スズメ、タラノキ・クマイチゴ	カモガヤ・オオアワガエリ・ヨモギ	ヨシ・ドクゼリ、ヒメシロネ・イボクサ、タイヌビエ・サクラソウ	付着藻類・ケイソウ類	環境・植物群落など	スギ・ヒノキ植林	アカマツ群落・カラマツ群落	コナラ群落・ヤマハシノキ群落	タラノキ・クマイチゴ群落 先駆性低木群落	道路等 牧草地・ヨモギ群落	ヨシ群落・低湿性草本群落 水田		スギ・ヒノキ植林	アカマツ群落・カラマツ群落	落葉広葉樹林	伐採跡地・低木林	その他	牧草地・休耕地 湿性草地・水田 (堤防・排水路)	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (1) 最終処分場の存在に伴う影響 工事の実施と同様である。</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (1) 最終処分場の存在に伴う影響 ・残置林の設置 ・重点保全区画の設定 ・昆虫類誘因低減のための夜間照明の設置 ・暗渠による浸出水処理水の赤川への排水</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> (A) 環境への影響の回避・低減に係る評価 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p>				
生産者	スギ・ヒノキ	アカマツ・カラマツ	クサギ・スズメ、タラノキ・クマイチゴ	カモガヤ・オオアワガエリ・ヨモギ	ヨシ・ドクゼリ、ヒメシロネ・イボクサ、タイヌビエ・サクラソウ	付着藻類・ケイソウ類																							
環境・植物群落など	スギ・ヒノキ植林	アカマツ群落・カラマツ群落	コナラ群落・ヤマハシノキ群落	タラノキ・クマイチゴ群落 先駆性低木群落	道路等 牧草地・ヨモギ群落	ヨシ群落・低湿性草本群落 水田																							
	スギ・ヒノキ植林	アカマツ群落・カラマツ群落	落葉広葉樹林	伐採跡地・低木林	その他	牧草地・休耕地 湿性草地・水田 (堤防・排水路)																							
C. 指標種	<table border="1" data-bbox="255 1003 1228 1770"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>指標種</th> <th>選定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上位性</td> <td>ツキノワグマ</td> <td>・樹木の若芽や草本類、昆虫類、堅果、動物の死体、時には仔ジカも捕食する生態系の上位種である。</td> </tr> <tr> <td>オオタカ</td> <td>・小型哺乳類、シマヘビ等の爬虫類、ヤマアカガエル等の両生類、小型鳥類等を捕食する生態系の上位種である。</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">典型性</td> <td>アカマツ群落</td> <td>・生産者として、陸上生態系の最下層に位置し、ホンドアカネズミ、ニホンリス、カモシカ等の哺乳類、イスカ、ゴジュウカラ等の樹林性の鳥類、マツカレハ、ミスジツマキリエダシヤク等の昆虫類の生息地として典型的な場所である。</td> </tr> <tr> <td>コナラ群落</td> <td>・生産者として、陸上生態系の最下層に位置し、ホンドヒメネズミ、ホンドタヌキ、カモシカ等の哺乳類やエナガ、シジュウカラ等の樹林性の鳥類、マエキカギバ、ウスジロエダシヤク、カブトムシ等の昆虫類の生息地として典型的な場所である。</td> </tr> <tr> <td>ホンドアカネズミ</td> <td>・対象事業実施区域及びその周辺に広く生息しており、当地域のような里山を代表する典型的な種である。</td> </tr> <tr> <td>ホンドタヌキ</td> <td>・全域で目視観察、足跡や糞が確認され、対象事業実施区域及びその周辺に広く生息しており、当地域のような里山を代表する典型的な種である。</td> </tr> <tr> <td>シジュウカラ</td> <td>・樹林での確認個体数が多く、事業実施区域内の樹林環境に典型的な種である。</td> </tr> <tr> <td>アメマス (エゾイワナ)</td> <td>・河川源流域を生息環境としており、事業実施区域内の河川に典型的な種である。</td> </tr> <tr> <td>特殊性</td> <td colspan="2">特殊性に該当する種は確認されていない。</td> </tr> </tbody> </table>	区分	指標種	選定理由	上位性	ツキノワグマ	・樹木の若芽や草本類、昆虫類、堅果、動物の死体、時には仔ジカも捕食する生態系の上位種である。	オオタカ	・小型哺乳類、シマヘビ等の爬虫類、ヤマアカガエル等の両生類、小型鳥類等を捕食する生態系の上位種である。	典型性	アカマツ群落	・生産者として、陸上生態系の最下層に位置し、ホンドアカネズミ、ニホンリス、カモシカ等の哺乳類、イスカ、ゴジュウカラ等の樹林性の鳥類、マツカレハ、ミスジツマキリエダシヤク等の昆虫類の生息地として典型的な場所である。	コナラ群落	・生産者として、陸上生態系の最下層に位置し、ホンドヒメネズミ、ホンドタヌキ、カモシカ等の哺乳類やエナガ、シジュウカラ等の樹林性の鳥類、マエキカギバ、ウスジロエダシヤク、カブトムシ等の昆虫類の生息地として典型的な場所である。	ホンドアカネズミ	・対象事業実施区域及びその周辺に広く生息しており、当地域のような里山を代表する典型的な種である。	ホンドタヌキ	・全域で目視観察、足跡や糞が確認され、対象事業実施区域及びその周辺に広く生息しており、当地域のような里山を代表する典型的な種である。	シジュウカラ	・樹林での確認個体数が多く、事業実施区域内の樹林環境に典型的な種である。	アメマス (エゾイワナ)	・河川源流域を生息環境としており、事業実施区域内の河川に典型的な種である。	特殊性	特殊性に該当する種は確認されていない。					
区分	指標種	選定理由																											
上位性	ツキノワグマ	・樹木の若芽や草本類、昆虫類、堅果、動物の死体、時には仔ジカも捕食する生態系の上位種である。																											
	オオタカ	・小型哺乳類、シマヘビ等の爬虫類、ヤマアカガエル等の両生類、小型鳥類等を捕食する生態系の上位種である。																											
典型性	アカマツ群落	・生産者として、陸上生態系の最下層に位置し、ホンドアカネズミ、ニホンリス、カモシカ等の哺乳類、イスカ、ゴジュウカラ等の樹林性の鳥類、マツカレハ、ミスジツマキリエダシヤク等の昆虫類の生息地として典型的な場所である。																											
	コナラ群落	・生産者として、陸上生態系の最下層に位置し、ホンドヒメネズミ、ホンドタヌキ、カモシカ等の哺乳類やエナガ、シジュウカラ等の樹林性の鳥類、マエキカギバ、ウスジロエダシヤク、カブトムシ等の昆虫類の生息地として典型的な場所である。																											
	ホンドアカネズミ	・対象事業実施区域及びその周辺に広く生息しており、当地域のような里山を代表する典型的な種である。																											
	ホンドタヌキ	・全域で目視観察、足跡や糞が確認され、対象事業実施区域及びその周辺に広く生息しており、当地域のような里山を代表する典型的な種である。																											
	シジュウカラ	・樹林での確認個体数が多く、事業実施区域内の樹林環境に典型的な種である。																											
	アメマス (エゾイワナ)	・河川源流域を生息環境としており、事業実施区域内の河川に典型的な種である。																											
特殊性	特殊性に該当する種は確認されていない。																												

表 9-1 総合評価 (10)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査								
景観	<p><b>A. 主要な眺望点の状況</b>                      主要な眺望点の概況は下表に示すとおりであった。                      なお、対象事業実施区域を視認できる地点は「柵沢集落」のみとなる。</p> <table border="1" data-bbox="261 310 1012 674"> <thead> <tr> <th>主要な眺望点</th> <th>概況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平館松尾・平館田圃の畦道</td> <td>八幡平市平館、対象事業実施区域の南東約3.3kmに位置する。岩手県の実験による「いわての残したい景観」で県民から公募した視点場のうちのひとつである。周辺は耕作地に囲まれている。</td> </tr> <tr> <td>柵沢集落</td> <td>八幡平市平館、対象事業実施区域から南側約1kmの間に広がる集落であり、約40世帯で構成される。住居のほか、耕作地や森林が多くを占めている。</td> </tr> <tr> <td>北森駅</td> <td>八幡平市野駄、対象事業実施区域の南東約1.9kmに位置する。北森駅は八幡平市役所に直結しており、地域住民が日常的に利用する場所となっている。国道282号沿道であり、周辺は商店や耕作地が存在している。</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>B. 景観資源の状況</b>                      本地域は、山地の樹林景観が広がる環境であり、小規模な農村景観や市街地景観が点在する。                      なお、対象事業実施区域の近隣には特筆すべき景観資源は存在せず、かつ対象事業実施区域から望むことのできる景観資源も存在しない。</p> <p><b>C. 主要な眺望景観の状況</b>                      主要な眺望点である「平館松尾・平館田圃の畦道」や「北森駅」は、丘陵地の起伏、民家や樹林地により、対象事業実施区域を視認することはできない。                      最寄りの「柵沢集落」は、対象事業実施区域を視認できるが、大部分を樹林地に遮られる状況である。</p>	主要な眺望点	概況	平館松尾・平館田圃の畦道	八幡平市平館、対象事業実施区域の南東約3.3kmに位置する。岩手県の実験による「いわての残したい景観」で県民から公募した視点場のうちのひとつである。周辺は耕作地に囲まれている。	柵沢集落	八幡平市平館、対象事業実施区域から南側約1kmの間に広がる集落であり、約40世帯で構成される。住居のほか、耕作地や森林が多くを占めている。	北森駅	八幡平市野駄、対象事業実施区域の南東約1.9kmに位置する。北森駅は八幡平市役所に直結しており、地域住民が日常的に利用する場所となっている。国道282号沿道であり、周辺は商店や耕作地が存在している。	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>  <b>(1) 最終処分場の存在に伴う影響</b>  <b>a) 主要な眺望点及び景観資源への影響</b>                      本事業においては、廃棄物の運搬等での柵沢集落内の通行及び柵沢集落における改変等はなく、主要な眺望点や景観資源への影響はない。</p> <p><b>b) 主要な眺望点及び景観資源への影響</b>                      柵沢集落から対象事業実施区域方向を望む眺望景観は、いずれの季節においても法面以外の大部分が手前の樹林地や管理用区画に遮られて視認できず、視野の改変割合は2.9%とごく一部にとどまる。また、構造物を敷地境界からセットバックすることにより、スカイラインの横断や構造物の視認を回避している。                      以上のことから、施設の存在による景観への影響は小さいと予測される。</p>  <p>現況の景観（春季）</p>  <p>最終処分場の供用後の景観（春季）</p>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>  <b>(1) 最終処分場の存在に伴う影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設前面の管理用区画の設置</li> <li>・造成法面の緑化</li> </ul>	<p><b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b>  <b>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</b>                      左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。</p>	<p>事後調査を実施する必要性はないと判断した。</p>
主要な眺望点	概況												
平館松尾・平館田圃の畦道	八幡平市平館、対象事業実施区域の南東約3.3kmに位置する。岩手県の実験による「いわての残したい景観」で県民から公募した視点場のうちのひとつである。周辺は耕作地に囲まれている。												
柵沢集落	八幡平市平館、対象事業実施区域から南側約1kmの間に広がる集落であり、約40世帯で構成される。住居のほか、耕作地や森林が多くを占めている。												
北森駅	八幡平市野駄、対象事業実施区域の南東約1.9kmに位置する。北森駅は八幡平市役所に直結しており、地域住民が日常的に利用する場所となっている。国道282号沿道であり、周辺は商店や耕作地が存在している。												

表 9-1 総合評価 (11)

項目	調査結果	予測結果	環境保全措置・環境配慮事項	評価結果	事後調査																																				
廃棄物等	<b>A. 建設工事に伴う残土量</b> 本事業において発生する残土は、Ⅰ期 557,825m <sup>3</sup> 、Ⅱ期 56,643m <sup>3</sup> 、Ⅲ期 23,031m <sup>3</sup> の計 637,499m <sup>3</sup> となる。	<b>【工事の実施】</b> <b>(1) 造成等の施工に伴う影響</b> 本事業における残土の発生量は、全期で 637,499m <sup>3</sup> となるが、これらの86%は埋立時の覆土材として再利用され、最終的な残土量は 90,269m <sup>3</sup> まで削減される。なお、これらの残土についても場外搬出はせず、場内での利活用を検討する計画である。 建設工事に伴い発生する伐採木は、Ⅰ期において 13,458m <sup>3</sup> 、Ⅱ期において 302m <sup>3</sup> となるが、これらの伐採木は可能な限りチップ化、バイオマス燃料等として再生利用を図る計画である。	<b>【工事の実施】</b> <b>(1) 造成等の施工に伴う影響</b> ・残土の覆土材としての利用 ・伐採木の再生利用	<b>【工事の実施】</b> <b>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</b> 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。	事後調査を実施する必要性はないと判断した。																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>Ⅰ期</th> <th>Ⅱ期</th> <th>Ⅲ期</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切土</td> <td>1,336,202 m<sup>3</sup></td> <td>82,089 m<sup>3</sup></td> <td>48,047 m<sup>3</sup></td> <td>1,466,338 m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td>682,291 m<sup>3</sup></td> <td>22,901 m<sup>3</sup></td> <td>22,514 m<sup>3</sup></td> <td>727,706 m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td>18,248 m<sup>3</sup></td> <td>0 m<sup>3</sup></td> <td>0 m<sup>3</sup></td> <td>18,248 m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>残土</td> <td>557,825 m<sup>3</sup></td> <td>56,643 m<sup>3</sup></td> <td>23,031 m<sup>3</sup></td> <td>637,499 m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>[切土-(盛土+埋戻し)/0.9]</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					項目	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	合計	切土	1,336,202 m <sup>3</sup>	82,089 m <sup>3</sup>	48,047 m <sup>3</sup>	1,466,338 m <sup>3</sup>	盛土	682,291 m <sup>3</sup>	22,901 m <sup>3</sup>	22,514 m <sup>3</sup>	727,706 m <sup>3</sup>	埋戻し	18,248 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	18,248 m <sup>3</sup>	残土	557,825 m <sup>3</sup>	56,643 m <sup>3</sup>	23,031 m <sup>3</sup>	637,499 m <sup>3</sup>	[切土-(盛土+埋戻し)/0.9]										
項目	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	合計																																					
切土	1,336,202 m <sup>3</sup>	82,089 m <sup>3</sup>	48,047 m <sup>3</sup>	1,466,338 m <sup>3</sup>																																					
盛土	682,291 m <sup>3</sup>	22,901 m <sup>3</sup>	22,514 m <sup>3</sup>	727,706 m <sup>3</sup>																																					
埋戻し	18,248 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	18,248 m <sup>3</sup>																																					
残土	557,825 m <sup>3</sup>	56,643 m <sup>3</sup>	23,031 m <sup>3</sup>	637,499 m <sup>3</sup>																																					
[切土-(盛土+埋戻し)/0.9]																																									
温室効果ガス等	<b>B. 建設工事に伴う伐採木量</b> 本事業において発生する伐採木量の推定値は、Ⅰ期 13,458m <sup>3</sup> 、Ⅱ期 302m <sup>3</sup> の計 13,760m <sup>3</sup> となる。なお、Ⅲ期は伐採木は発生しない。	<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> <b>(1) 廃棄物の存在・分解に伴う影響</b> 本事業では、有機性廃棄物を埋立対象としないことから、廃棄物から発生するメタンは限りなく少ないと考えられる。また、本施設は準好気性埋立構造であり、かつガス抜き管等も設置することから、メタンの発生は抑制される。このため、廃棄物の埋立による影響は小さいと予測される。	<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> <b>(1) 廃棄物の存在・分解に伴う影響</b> ・準好気性埋立によるメタン発生量の抑制	<b>【土地又は工作物の存在及び供用】</b> <b>(A) 環境への影響の回避・低減に係る評価</b> 左記の環境配慮事項を実行することにより、環境への影響が回避・低減されると評価する。	事後調査を実施する必要性はないと判断した。																																				
	<b>A. 廃棄物の埋立量</b> 事業計画に基づく1期あたりの廃棄物の埋立量は下表のとおりであり、有機性廃棄物は基本的に埋立対象としない。																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>埋立量 (t/年)</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無機性汚泥</td> <td>5,902</td> <td>14.3</td> </tr> <tr> <td>燃え殻</td> <td>6,980</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>ばいじん</td> <td>2,565</td> <td>6.2</td> </tr> <tr> <td>廃石綿</td> <td>182</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>鉱さい</td> <td>690</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>がれき類</td> <td>1,923</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>ガラス、コンクリ、陶磁器</td> <td>22,755</td> <td>55.4</td> </tr> <tr> <td>破砕物</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>廃プラ</td> <td>134</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41,131</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	品目	埋立量 (t/年)	割合 (%)	無機性汚泥	5,902	14.3	燃え殻	6,980	17	ばいじん	2,565	6.2	廃石綿	182	0.4	鉱さい	690	1.7	がれき類	1,923	4.7	ガラス、コンクリ、陶磁器	22,755	55.4	破砕物	0	0	廃プラ	134	0.3	その他	0	0	合計	41,131	100				
品目	埋立量 (t/年)	割合 (%)																																							
無機性汚泥	5,902	14.3																																							
燃え殻	6,980	17																																							
ばいじん	2,565	6.2																																							
廃石綿	182	0.4																																							
鉱さい	690	1.7																																							
がれき類	1,923	4.7																																							
ガラス、コンクリ、陶磁器	22,755	55.4																																							
破砕物	0	0																																							
廃プラ	134	0.3																																							
その他	0	0																																							
合計	41,131	100																																							